

電気のふるさと



わがまち自慢

～市長室から～

つるが
福井県敦賀市
かわせ かつはる
河瀬 一治 市長



古くから交流拠点都市として 発展してきたまち

私たちのまち敦賀市は、天然の良港を擁し、古くから海陸交通の要衝でした。古代には朝鮮半島や中国大陸との交流、中世から近世にかけても北前船の中継地であり、明治時代には日本海側で最初に鉄道が開通したところなのです。

明治35年に、敦賀港からロシアのウラジオストクへの航路が開設されると、明治43年には日本から東清鉄道への国際連絡運輸が開始され、東京駅より、ヨーロッパへの直通列車が運行し、ここ敦賀を経由して、内外の人々が、我が国とヨーロッパを往来していました。

また、敦賀港は「人道の港」ともいわれています。

第二次世界大戦中、リトアニアの領事代理であった杉原千畝さんはナチス・ドイツの迫害から逃れるユダヤ人難民のために、本国外務省の許可が得られないまま「命のビザ」を発給し続けました。

このビザを持ったユダヤ人難民はシベリア鉄道を経由して敦賀港に次々と上陸されました。その数は6,000人とも報じられており、難民に温かい援助の手を差し伸べた敦賀市民の対応は、数々のエピソードとして残されています。

このように、敦賀は陸と海を結ぶ「鉄道と港のまち」として発展してきました。

誰もが住みたくなる 魅力あるまちづくりを

こうした敦賀の歴史文化資源が集積しているのが市内の金ヶ崎周辺です。ここには、「旧敦賀港駅舎」や「人道の港 敦賀ムゼウム」があります。来年10月には、全国で初めての鉄道と港のジオラマを配した「ジオラマ館」と、明治38年に建設された赤レンガ倉庫の、古きたたくまいを活かした「レストラン館」がオープンします。本市が最も輝いていた明治後期から昭和初期の時代の雰囲気や、訪れる皆様に満喫していただきたいと思っています。

今、戦国史がブームですが、「金ヶ崎崩れ」と呼ばれる有名な織田信長の撤退戦の舞台になったのも、この敦賀です。朝倉義景軍と浅井長政軍に挟まれた織田軍が木下秀吉を中心に、撤退戦を行っており、その中心となった金ヶ崎城址は港の近くにあります。信長・秀吉・徳川家康をはじめ、戦国の武将たちが勢ぞろいした地となっています。このほか、北陸道の総鎮守である氣比神宮や日本三大松原である氣比の松原などはよく知られている敦賀の名所です。

敦賀ふぐや越前ガニなどの魚介類もよく知られていますが、「手すき

おぼろ昆布」は、敦賀が北前船の中継地であったところからの特産品です。その8割以上がここ敦賀で加工されています。蝦夷地から昆布が運ばれて来て、ここで加工され京都の人々の食膳にのぼったのでしょう。

このほか、敦賀は、ミカン栽培の北限地で、江戸時代から栽培されました。リンゴ栽培の南限地でもあり、伝統野菜である赤カブもよく知られています。

本年4月に、敦賀駅が整備され玄関口の新たなシンボルとして「オルパーク」という交流施設をオープンしました。「いつも人が集まって“おる”」スペースになることを願い、名づけられました。また、ヘブライ語で「オル」は「絆」を意味します。市民はもちろんのこと、敦賀を訪れていただく皆様との絆を深めていけることを心から願っております。

全国の市を対象に、東洋経済新報社が毎年発表する「住みよさランキング」では、おかげさまで2013年度総合ランキング18位に評価されました。

私どもは「世界をつなぐ港まち みんなで拓く交流拠点都市 敦賀」を将来都市像に定めております。今後も、知恵を絞って、誰もが住みたくなる魅力あるまちづくりを進めてまいります。(談)



「旧敦賀港駅舎」。内部は鉄道資料館になっている



全国の8割以上を生産する「手すきおぼろ昆布」



杉原千畝の紹介やユダヤ人と敦賀の人々の交流などを展示する「人道の港 敦賀ムゼウム」



北陸の総鎮守・氣比神宮。木造としては日本三大鳥居のひとつ

日本三大松原のひとつ氣比の松原



- 【写真】 1 明宝レディースの社員の皆さん
 2 ケチャップの原料となるトマトは岐阜県内から仕入れる
 3 第3セクター「めいほうスキー場」は県内有数の規模を誇る
 4 旧明宝村寒水地区にある社屋
 5 商品群の一部。時計回りに『天然山ぶき』（324円）、『赤かぶら』（324円）、『梅干し』（324円）、トマトを使った『トマト3姉妹』（1,697円）

特集

「協働」と「連携」のまちづくり
 岐阜県郡上市明宝地区の地域活性化事業

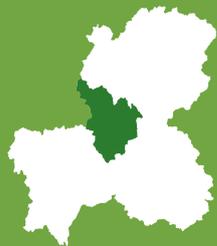
女性の視点による多彩な
 事業展開を推進する明宝レディース



1



2



岐阜県郡上市の明宝地区にある株式会社明宝レディースは、「中日農業賞」「ちいき経済賞」の受賞、「立ち上がる農山漁村」「農商工連携88選」の選定など、数々の表彰や国の先進事例指定などで知られる事業者。今回は、女性ならではの視点で地域活性化を推進する事例をお届けする。



3

農村主婦による
 「生活改善グループ」が出発点

東海北陸自動車道を郡上八幡ICで降り、国道472号・通称せせらぎ街道を北に約20分走ると、郡上市旧明宝村に至る。ここは美濃地方の北端で奥美濃とも呼ばれる、長良川の支流・吉田川に沿った典型的な中山間地域である。濃尾地方では、旧明宝村の名は、リズムカルな『明宝ハム』のTVコマースから、よく知られているところだ。

またここは、明治30年に奥明方村が成立し、昭和45年、明方村に改称、さらに平成4年に明宝村と改称して、「地域CI（Community Identity）」を進めた自治体としても知られている。

平成16年には周辺の6町村と合併して郡上市となった。その旧明宝村の寒水地区に、株式会社明宝レディースはある。



4

1990年代における旧明宝村の「村おこし」構想を受けて、次々と設立された5つの第3セクターのうちのひとつ。緑豊かな集落の一角に建つ社屋の玄関を入ると、ロビーには数々の賞状や盾、トロフィーが誇らしげに飾られている。「中日農業賞」「ちいき経済賞」の受賞、「立ち上がる農山漁村」「農商工連携88選」



5

■郡上市情報■

【人口】44,728人（明宝地区：1,906人）
 （平成25年4月末現在）
 【面積】1,030.79平方キロメートル
 （明宝地区：154.86平方キロメートル）
 【発電所データ】
 中部電力(株)長良川水力発電所
 【本特集問合せ先】
 株式会社明宝レディース
 ☎0575-87-2388

★トマトケチャップの製造工程

1 採れたて新鮮なトマトを洗浄後、トマトの皮やヘタなどの余分なものを取り除き、ジュース状にして5時間煮込む。この間に調味料などを何回かに分けて入れて味を整え、手作業でかき混ぜ、アクは丁寧に取り除く。



2 約半分の量になるまで煮込む。味は凝縮され、色もトマトの濃い赤色になる。



3 トマトケチャップが規定の糖度を満たしているか検査する。



4 瓶に入れたトマトケチャップを1つずつ丁寧に蓋をしていく。これも手作業で行う。



5 蓋を付けたトマトケチャップはそのまま高温の熱湯で煮沸される。



の選定などによるもの。女性によるコミュニケーションの先進的な事業体として全国的に有名になった。その前身は、昭和36年に結成された「芝生グループ」や昭和50年に結成された「仲良しグループ」、昭和58年の「若草グループ」といった、食生活の改善や生活環境の改善を目指す親睦集団である「生活改善グループ」である。

青空市場でのこんにやくの製造販売や、名古屋市の物産展に『朴葉すし』の出品などをしてきたが、転機となったのは、昭和58年のトマトケチャップの試作であった。

旧明宝村では、1970年代後半から稲作や養蚕などからの転作作物としてトマトの栽培が盛んに行われてきたが、「生活改善グループ」でもトマト栽培に取り組む。そのトマトの規格外品を何とか有効活用しようとしたのが始まりとなった。

その後、試行錯誤を繰り返してケチャップの製造にたどり着き、平成元年に販売を開始した。この年、村



株式会社明宝レディース 社長 鷺見 美代子 さん

女性だからできる あたたかく優しい加工商品

明宝レディースの現在の事業は、自然産品の農産物加工商品を作る部門と、『道の駅・磨墨の里公園（道の駅・明宝）』に出店する直営の和食処

の補助事業で農産物加工施設を建設したことも追い風になった。しかし、当初は村のイベントなどで細々と販売しており、「生活改善グループ」の副業の域を出るものではなかった。

翌年には村内のスキー場に「ぜんざい」を販売する店舗を季節限定で

『おかみさん』や、『めいほうスキー場』での『ぜんざいや』の飲食部門などに分かれる。従業員は、その名のとおり全員女性で現在11人。

「女性だからこそできる、あたたかみ優しさに加えて、岐阜の自然の恵みをいっぱい受けて育った野菜や果物を皆様にご提供できればと思います。今日まで活動してきました」と、3代目の鷺見美代子社長は語る。鷺見社長は入社17年で、先代の本川榮子社長の後を継ぎ、平成23年に社長に

が50%、残りの20%を生活改善グループの主婦達が出資することになった。その後の経緯は7ページの表「明宝レディースの歩み」を参照していただければわかるように、全国にも類まれな、農村女性による地域活性化の成功事例として知られることとなったのだ。

就任した。その主力商品は、トマトケチャップ。平成10年ごろから、TVや新聞で取り上げられるようになって、大評判となり、売り上げが増加。今では近畿・東海の有名百貨店でも販売されるようになった。その他の加工品は、赤かぶら漬、天然山ふきのきやらぶき、梅干し、葉とうがらしの南蛮煮など。

このトマトケチャップの最大の特徴は、原料・製造工程へのこだわりだ。



(左上)『道の駅・磨墨の里公園』にある明宝レディース直営の『おかみさん』
 (右上)『おかみさん』の日替わり弁当 (830円)。寒水名物の『つぎ汁』がつく
 (左中) 旧明宝村で最初に設立された明宝特産物加工株式会社
 (右中) 明宝特産物加工株式会社で作られる『明宝ハム』
 (左下)『道の駅・磨墨の里公園』で売られる『トマトケチャップ』(597円)

一貫して、地元で栽培される夏秋トマトを原料としている。初めは『桃太郎』という品種だけだったが、ここ数年は猛暑が続き、暑さに強い新しい品種も加わってきている。

当初は、地元で生産されたトマトの規格外品の活用ということだったが、生産量の増加に伴い、現在では郡上市のみならず、県北部の飛騨地方にまで調達範囲を広げている。

製造工程にも、こだわりがある。手洗いにしよ洗浄し、ジューズ状にした後、大きな鍋で5時間煮詰める。その間、手作業でかき混ぜながら、あく取りをし、調味料を加えて味を整え、瓶詰めされ、蓋付け、煮沸消

毒、ラベル貼りの工程をたどる。このように、機械を使用するのはジューズ状にするときだけで、まさに『手作りの味』。もちろん、保存料・着色料などは一切使用しない。こうした「手作り・無添加」の製造工程も、明宝レディースのトマトケチャップの評価を高めている。

トマトケチャップをはじめとした加工品は、地域内では『明宝ハム』を製造・販売する明宝特産物加工(株)や、『道の駅・磨墨の里公園』、温浴施設『湯星館』、『めいほうスキー場』など旧明宝村が設立した第3セクターを通じて販売される。中でも『明宝ハム』とセットで販売されている

『明宝高原ギフトセット』はヒット商品のひとつ。地域内の第3セクターと連携しながら販路を拡大してきた。地場において、産業連関を形成

背景にある高い地域住民の『自立意識』

こうした、女性によるコミュニティビジネスの成功の背景にあるのは、旧明宝村の官民にわたる『自立意識』の高さにある。昔から村内の自治会組織が強く、地域社会における協働機能が維持されてきた。

明宝レディースの前身である主婦による「生活改善グループ」の活動も、地域内の家と家との結びつきが強かったためである」と推測できる。

また、それを支える「とうちゃん」や「お姑さん」達の有形・無形の支援があったことは想像に難くない。

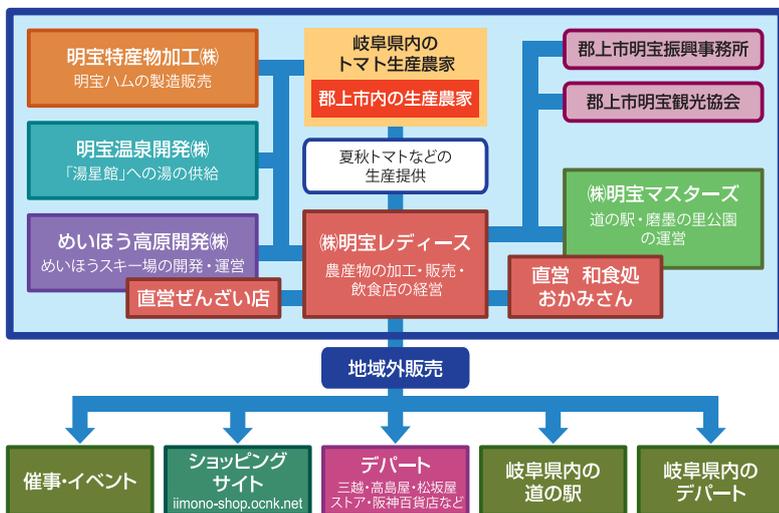
さらに、こうした地域性は、官である旧明宝村の職員たちにも受け継がれていた。

1980年代から、観光開発や特産品開発を積極的に推進して、前述の明宝特産物加工(株)をはじめ

しているのも大きな特徴だ。平成4年当時から、今で言う「6次産業化」を推し進めてきたことは注目に値する。

め、めいほう高原開発(株)、明宝温泉開発(株)、(株)明宝マスターズといった第3セクターによる多様な法人を次々と設立して、村の雇用の場を生み出していった。

明宝レディースの連携先





和田 佐和子 さん

最後に設立された明宝レディースの揺籃期には、当時の村長であった高田三郎さんは、社員とともに肩にトマトケチャップなどの商品を背負い、各地にPRに出かけた。「5つ目は女性だけの会社を」という村長の思いはとても強かったという。

また、役場の当時の担当係長で、後に郡上市の副市長になった鈴木俊幸さんは、女性社員の「とうちゃん」

達へ、事業への理解と協力をお願いして回った。設立当初、女性だけの会社経営に多くの人々が不安視する中、女性の感性を生かす地域活性化活動は次第に認められていった。古くから培われてき

た、この地域の自立性を土台に、地域の地域振興策は、こうして身を結んでいく。

鷺見社長も、小さいころのことを覚えている。

「昔は、ほんとに貧しかったんですが、母親のような世代の女性たちが『生活改善グループ』などの活動に嬉々として飛び回る姿はまぶしく見えました」

また、寒水地区の若いグループ員であった和田佐和子さんも、当時を

『明宝』の知名度をさらに高め 次の飛躍を目指す

今後の課題は、原材料となるトマトの不足だ。明宝レディースが仕入れるトマトは、前述したように規格外のものが主流だが、昨今のトマトブームで、そうしたトマトでも買い手が付くようになっており、争奪戦が起きている。会社を始めた頃は、規格外のトマトを買ってくれるとありがたがられたが、立場が逆転したという。

そのため、県内の産地に何度も足を運んだり、買い取り単価の引き上げなども行わざるを得なかった。とにかく、今は量を確保することに力を注ぐ。

全体の年間売り上げも、旧明宝村

振り返る。

「露地栽培から始めましたが、規格外のトマトを、もったいないということでケチャップに加工して販売して売れたときは、苦勞もしたが嬉しかった」

和田さんは、今もトマト栽培を続けており、明宝レディースに出荷している。「生活改善グループ」の時代から明宝レディースの活動に加わってきた者として、鷺見社長の様々な相談にも乗っている。

を訪れる観光客の減少とリンクするように低下してきた。『めいほうスキー場』や『道の駅・磨墨の里公園』での販売額が落ちてきているからだ。

そのための取組みとして、新製品の開発を急いでいる。ケチャップ以外にデザートになるようなお菓子製品を考えている。

また、東京や大阪の百貨店で開催される物産展にもこまめに出席し、販路の拡大に努める。源平合戦の「宇治川の先陣争い」で名高い名馬『磨墨』が旧明宝村の産駒であることにちなみ、馬つながりということで東京・大田区の馬込や、郡上藩の藩主であった青山氏つながりで東京・青



第3金曜日に提供される特別メニュー『金曜日のおかみさん』の明宝トマトケチャップの鉄板ナポリタン(850円)

山のイベントでの出張販売なども行う。当然、旧明宝村のPRも忘れられない。

『道の駅・磨墨の里公園』にある『おかみさん』では、日替わり弁当に、寒水郷土料理である『つぎ汁』を提供する。郡上南蛮と昆布・干し椎茸・煮干等をじっくり煮出し、豆腐を細かく刻んだものだけを具にした、辛味のあるすまし汁。その昔、汁を「注ぎまわった」ところから『つぎ汁』という名が付けられたとされる。

また、第3金曜日には「明宝トマトケチャップ」をたっぷり使用した、オムライスと鉄板ナポリタンの特別メニューの「金曜日のおかみさん」を始めた。鷺見社長は言う。「なによりも、



同じく特別メニュー『金曜日のおかみさん』の明宝トマトケチャップのオムライス(850円)



明宝温泉『湯星館』の人気の露天風呂。ここも第3セクターで設立された



名馬・磨墨にちなんで命名された『道の駅・磨墨の里公園(道の駅・明宝)』

この地域全体を売ることが重要だと思います。観光も含めて、さらに『明宝』の名を全国にPRして頂くことが、商品の売り上げ増につながると思います」

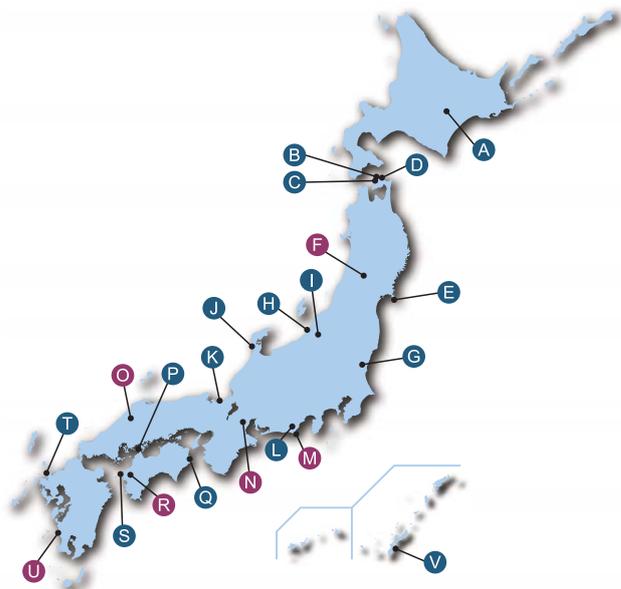
最近、出張販売などで大都市に出かけると、「知っていますよ」と声をかけられることが増えた。さらに『明宝』の知名度を上げ、さらなる事業の飛躍を目指している。

■明宝レディースの歩み

昭和36年	芝生グループ結成(グループ員11名)
	食生活の改善、生活環境の改善および親睦集団として発足
昭和50年	仲良しグループ結成(グループ員7名)
昭和52年	グループ員で夏秋トマト栽培に取り組む
昭和56年	青空市場の開設(村民センター前 毎月第2・4日曜日)。こんにゃくの試作および製造販売
昭和57年	奥美濃物産店に朴葉ずしを1週間出品する(名古屋市)
	全国グループ活動実績発表大会に県代表として出場(芝生グループ)
昭和58年	トマトケチャップ試作
	若葉グループ結成(グループ員10名)
昭和61年	明宝村農業婦人クラブ結成
	郷土食「おからもち」の製造法の統一
	岐阜県農業フェスティバルに明宝村農業婦人グループコーナーを設け「おからもち」を販売する
昭和63年	摘果メロンの酒粕漬、飛騨紅かぶ漬の商品化に取り組む
平成元年	農産物加工所建設、54.63㎡(わがむら特産物推進事業)
	漬物、ソース類、そうざい、こんにゃくの製造営業許可取得。トマトケチャップの製造、販売開始
平成2年	青空市場を「磨墨の里公園」へ移転(毎週日曜日開催)
	スイートコーン栽培及び加工、冷蔵貯蔵に取り組む。めいほうスキー場に「農業婦人の店」開店
平成3年	農産物加工所に貯蔵室増設(9.94㎡)。もち加工施設一式導入(ふるさと食品育成事業)
	全国グループ活動実績発表大会に県代表として出場(仲良しグループ)
平成4年	株式会社明宝レディース設立(命名梶原県知事)
	明宝温泉「湯星館」内に、うどん・そばの店「ゆうゆう」開店
平成6年	加工所改造工事(19.87㎡)、事務所兼休憩所増設(26.5㎡)
	仕出し業営業許可取得、弁当・朴葉ずし製造開始
平成7年	全国レディースサミット開催。明宝温泉内「ゆうゆう」開店
平成8年	デイサービスにて昼食担当
平成9年	「中日農業賞」受賞。新工場を同村寒水268-1に移転
平成10年	明宝温泉内「ゆうゆう」リニューアルオープン
平成15年	「第8回ちいき経済賞 ふるさとスピリット賞」受賞
	12月、道の駅「磨墨の里公園」内に食事処「おかみさん」をオープン
平成16年	6月、農林水産省「立ち上がる農山漁村」に選定
平成20年	7月、経済産業省と農林水産省の共同プロジェクト「農工商連携88選」に選定
平成22年	明宝温泉湯星館「ゆうゆう」事業譲渡
平成23年	「トマト3姉妹」発売
	代表取締役の本川榮子氏が取締役会長に、取締役専務の鷲見美代子氏が代表取締役に就任

電源地域

情報ひろば



「電源地域情報ひろば」は、各市町村で開催されるイベント・伝統的なお祭りや、特産品などの情報をまとめて掲載するコーナーです。イベント・お祭りについては今回は7～9月の情報です。読者の皆様方で掲載のご希望がございましたら、電気のふるさと編集室までお知らせください。自薦、他薦を問わず受け付けています。なお、掲載費用が発生することはありません。(編集の都合上、掲載できない場合がございますことを予めご理解願います)

■地域振興部 振興業務課 電気のふるさと編集室
☎03-6372-7305 E-mail : furusato@dengen.or.jp

イベント おおままち 大間町(青森県)

地図 B

大間の町を満喫する ～日曜日はマグロだDAY

毎年マグロシーズンが本格化する9～10月の日曜日に開催されているイベントです。

イベントのメインは大間マグロの解体ライブショーとマグロの即売会です。解体ライブショーはマグロの説明はもちろん、観客と話しながら明るい雰囲気で行われます。時には夫婦で来ている方が指名され、ケーキ入刀ならぬマグロ入刀が行われ、会場が一体となって盛り上がります。

また、マグロの他に大間の特産品の販売もあります。

【開催日】9～10月の日曜日

【開催場所】大間港旧冷蔵庫特設会場(キュウレイ)

【問合せ先】日曜日はマグロだDAY実行委員会 ☎0175-37-2718

【URL】<http://oma-wide.net/>



マグロ入刀の様子

イベント かみしほろちょう 上士幌町(北海道)

地図 A

熱気球が彩る北の大空 ～第41回北海道バルーンフェスティバル

1974(昭和49)年に国内初の熱気球による競技会が行われた「熱気球のふるさと上士幌」で、毎年夏に開催される町の一大イベントです。

爽やかな夏の北海道の澄みきった真つ青な大空、限りなく広がる緑と黄金の穂波がうねる十勝でのフライトを楽しみに、全国から約30機もの熱気球が参加しますが、特にメイン会場の航空公園からの一斉離陸は圧巻で、多くの観客の目を楽しませます。

【開催日】8月8日(金)～10日(日) 【開催場所】上士幌町航空公園他

【問合せ先】上士幌町商工観光課 ☎01564-2-2111

【URL】<http://www.kamishihoro.jp>



夏の緑色の大地を彩る数多くの熱気球

イベント かざまうらむら 風間浦村(青森県)

地図 D

夜の散歩と足湯体験 ～漁火ウォーク

地元のガイドと一緒に幻の大間鉄道アーチ橋や井上靖文学碑等、下風呂温泉の名所を巡り、最後に津軽海峡の幻想的な漁火を眺める約1時間の夜の散歩会です。

漁り火だけでなく、大間・戸井・尻屋のトライアングル灯台や、澄んだ夜空を彩る北極星などの眺めも楽しめます。

また、親切丁寧な地元の方しかわからない話を織りませ、方言を存分に使いながら楽しく説明してくれるガイドぶりも楽しみのひとつです。

【開催日】7～10月 【開催場所】海峡いさり火公園他

【問合せ先】風間浦村観光協会 ☎0175-35-2010

【URL】<http://www.shimohuro.com>



北極星を探す参加者たち

イベント さいむら 佐井村(青森県)

地図 C

江戸時代から300年以上の歴史 ～^{やねのもり}箭根森八幡宮例祭典

江戸時代の元禄9(1696)年に始まったとされ、村人の生活の平安に思いを込めながら、その歴史を今に伝える佐井村最大の行事です。

京都祇園の流れをくむ由緒ある祭典は世代を越えて村民が一緒になって参加し、3日間にわたって開かれます。

豪華絢爛な神輿や神楽、山車の長い行列が祭囃子を秋風に乘せて村を練り歩きます。

【開催日】9月14日(日)～16日(火) 【開催場所】佐井村大佐井・古佐井地区一円

【問合せ先】佐井村観光協会 ☎0175-38-4515

【URL】<http://saikanko.sakura.ne.jp>



祭りを盛り上げる山車

特産品 ^{もがみまち} 最上町 (山形県)

地図 F

特産の「最上赤にんにく」を使って小学生が考案した焼肉のたれ

最上町の特産は「最上赤にんにく」。この赤にんにくを使い、町立赤倉小の児童が考案した焼肉のたれが商品化されています。この3月から町内のスーパーなどで販売を開始しました。商品化されたのは5年・荒木怜君(11)が考案した「自家製秘伝たれ」。昨年夏に同校で開かれた焼肉のたれコンテストで最優秀に輝いたもので、審査員の評価は「最上赤にんにくの風味がよく効いている」というものでした。それを町内の「最上赤にんにく」の生産業者と食品加工業者が商品化しました。その名は「最上赤 焼肉秘伝」。容量200グラムに瓶詰めされ、新庄市や最上町内のスーパーなどで販売されています。1本515円で、売り上げの一部は赤倉小に還元されます。同校では、地域の特産をどう生かすかを子どもたちに考えさせており、小学生版の「産学連携」が生んだ特産品といえます。

【問合せ先】最上町産業振興センター ☎0233-43-2340



イベント ^{おながわちょう} 女川町 (宮城県)

地図 E

復興と秋を感じる
～おながわ秋刀魚収穫祭2014

女川は全国でも有数のサンマの水揚げ港として知られていますが、その女川が自慢のサンマを主役にサンマと消費者への感謝を込めて開催してきたのが、「おながわ秋刀魚収穫祭」です。

現在、震災からの復興途上にある女川ですが、サンマの炭火焼きとすり身汁の無料サービス、各種ステージ、特産品の販売や各種体験コーナーなど、女川の旬と熱気を感じ取ることができます。

【開催日】(前夜祭)9月20日(土)、(収穫祭)21日(日)

【開催場所】調整中

【問合せ先】女川町観光協会 ☎0225-54-4328

【URL】<http://www.onagawa.org>



サンマの炭火焼き

イベント ^{かしわざき} 柏崎市 (新潟県)

地図 H

柏崎の街中に鳴子が鳴り響く
～どんGALA!祭り

「やさこい鳴子踊りで柏崎市中心商店街の活性化を図り、観光交流人口の拡大に寄与する」事を目的として、1999(平成11)年に誕生したイベントです。

「楽曲中に民謡が含まれ、鳴子を鳴らしながら前に進む振付である」事だけが基本ルールであり、毎年多くのチームが演舞・表現等に工夫を凝らして参加しており、開催中は街中に鳴子が鳴り響きます。

【開催日】7月19日(土)、20日(日) 【開催場所】駅通通り、ニコニコ通り他

【問合せ先】どんGALA!祭り実行委員会 ☎0257-23-1503

【URL】<http://www.dongala.jp>



熱く踊る踊り子たち

イベント ^{なか} 那珂市 (茨城県)

地図 G

満開のひまわりを楽しむ
～なかひまわりフェスティバル

「なかひまわりフェスティバル」は那珂市の代表的イベントのひとつです。

那珂市の花にもなっている「ひまわり」を基調としたこのイベントの見どころは、ひまわり畑です。

約4haの畑に約25万本のひまわりが咲き、見晴らし台から見た一面の花々の光景は見事です。

また、イベント会場ではコンサート、キャラクターショーなど各種ステージイベントや花火大会などが行われ、1日楽しむことができます。

【開催日】8月30日(土)

【開催場所】那珂総合公園

【問合せ先】那珂市観光協会(那珂市産業部商工観光課内) ☎029-298-1111

【URL】<http://www.naka-kanko.jp>



見渡すかぎりのひまわり畑

イベント ^{しかまち} 志賀町 (石川県)

地図 J

夏の志賀が燃える
～第25回西能登やっちゃ祭り

「西能登やっちゃ祭り」は夏の志賀の一大イベントです。

「やっちゃ」とは、嫁入りを祝う宴で唄われてきたはやし文句(しやさか)で、弥栄(ねぎらう、栄える等)の意味を持ちます。

会場では、町内の伝統芸能である獅子舞や太鼓演奏をはじめ、歌謡ショーが行われる他、祭りの最後には花火大会が行われ、打ち上げ花火の鮮やかな色が川面を染め、真夏の夜空を彩ります。

【開催日】7月27日(日)

【開催場所】志賀町柴木総合公園

【問合せ先】志賀町商工観光課 ☎0767-32-1111

【URL】<http://shikakankounavi.jp>



伝統芸能(矢駄「やだ」地区 獅子舞)

イベント ^{うおめま} 魚沼市 (新潟県)

地図 I

真夏に巨大な雪山が出現
～うおめま夏の雪まつり

真夏の奥只見・銀山平に数万トン規模の雪で作られた巨大な雪山が出現し、暑さが吹き飛ばす楽しいイベントです。

雪を使った盛りだくさんのゲームの他、付近の山・湖を使った催しも数多く開かれます。

また、魚沼の美味を集めたコーナーや夏休みの自由研究に役立つブースもあり、1日中家族で楽しむことができます。

夏休み最初の思い出に、冷たい雪の感触を存分に体験してみたいかたがでしょうか。

【開催日】7月26日(土)、27日(日)

【開催場所】銀山平キャンプ場特設会場

【問合せ先】うおめま夏の雪まつり実行委員会(魚沼市商工観光課内) ☎025-792-9754

【URL】<http://www.yunotani.com>



巨大な雪山で遊ぶ子どもたち

イベント しまだ 島田市 (静岡県)

地図 L

地域の歴史・技術を伝承 ～第57回島田髷まつり

子供から大人まで幅広い年代の女性が、伝統的な髪型である島田髷を結び、揃いの浴衣を着て奉納踊りを披露するイベントです。

髷娘達が市内各所で手踊りを披露しながら練り歩く髷道中では、「島田小唄」や「島田囃子」など4曲が披露されます。また、島田髷の考案者と伝えられている島田出身の遊女、「虎御前」の菩提寺である鶴田寺では、護摩焚供養祭と日本髪^{まげ}の結上げ文化に対する感謝祭を執り行います。

【開催日】9月21日(日) 【開催場所】本通り近辺、大井神社、鶴田寺
【問合せ先】島田市観光協会 ☎0547-46-2844
【URL】<http://www.shimada-ta.jp>



大井神社で手踊りを披露する髷娘たち

イベント たかはまちよう 高浜町 (福井県)

地図 K

古き良き風情を楽しむ ～和田de路地祭

高浜町和田地区の路地と民宿を舞台に花・アート・食で楽しむイベントです。

和田地区には現在でも数多くの建物・中庭・板塀・生垣など、かつて日本一といわれた民宿群としての風情が手つかずのまま残っています。

そんな和田を再発見しようと民宿ギャラリー、民宿カフェ・屋台、隣人祭^{ちようがいえん}「長街宴」など様々なイベントを和田地区の住民や町内外のアーティスト、大学生等が協力して開催します。

【開催日】9月14日(日)、15日(月・祝)
【開催場所】高浜町和田地区
【問合せ先】和田de路地祭実行委員会(高浜町まちづくり課内) ☎0770-72-7705
【URL】<http://blog.livedoor.jp/wadaroji/>



民宿ギャラリー

特産品 こものちよう 菰野町 (三重県)

地図 N

町名由来の植物「マコモ」で町おこし

マコモはイネ科の多年草で、日本では「古事記」や「日本書紀」に登場し、稲作が伝来するまでは主食にされた古からの穀物です。菰野町では商工会を中心に、町名の由来といわれるマコモの特産品開発に取り組んでいます。マコモに黒穂菌が付き、茎が肥大しマコモタケとなります。9月末から11月初旬に収穫され、シャキシャキとした独特の食感とほのかな甘みがあります。このマコモタケは、古くから中華料理の高級食材として扱われていましたが、菰野町では湯の山温泉街などの宿泊施設や町内飲食店でいろいろな料理を楽しんでいただくことができます。また、商工会でマコモ葉の成分を調べたところ、βカロチンやビタミンAが豊富に含まれることがわかり、パウダーにして麺やスイーツに活用した商品が、年間を通じて道の駅「ふるさと館」等のお土産コーナーでお買い求めいただくことができます。

【問合せ先】菰野町商工会 ☎059-393-1050



特産品 おまえざき 御前崎市 (静岡県)

地図 M

新名物「夢咲牛ハヤシライス」が登場

『遠州夢咲牛』は高い品質で知られる黒毛和牛。平成12年にJA遠州夢咲牛肉委員会が、地元で生産されている牛肉の良さを知ってもらうために、立ち上げたブランドです。『遠州夢咲牛』は脂が良質で、肉質がとてよわらかく、コクがあって深みのある味わいが特徴です。また、第7回全国和牛能力共進会での『内閣総理大臣賞』受賞や、近畿東海北陸連合牛肉共進会や、静岡県畜産共進会の肉牛の部において『内閣総理大臣賞』を受賞するなど、国内で常に高い評価を得ています。御前崎市では、この『遠州夢咲牛』を使った新ご当地メニューの開発に取り組み、平成26年2月に『遠州御前崎 夢咲牛ハヤシライス』が完成しました。このハヤシライスの定義は、『遠州夢咲牛』の肉の塊を乗せること、御前崎産の野菜を積極的に使用すること、ソースは店ごとのオリジナルであること、ご飯とセットで提供することです。市内9店舗で、その味が楽しめます。

【問合せ先】御前崎市農林水産課 ☎0537-85-1125



イベント おおさきかみしまちよう 大崎上島町 (広島県)

地図 P

伝統の海の祭典 ～ひがしの住吉祭

大阪住吉大社の流れをくみ、約200年前から続く祭りで毎年8月13日に開催されます。

豪快な海の祭典、権伝馬競漕が行われ、夜には海岸線に提灯が灯り、御本船の紅提灯が夜の海に映り、その光景はまるで水軍凱旋を祝うような華やかさです。

町内各地区から出る権伝馬舟は造りも工夫され、水夫・舵取りを選び抜き、太鼓の打ち方まで技術を競い合い、最後に豪快な花火が夜空を彩ります。

【開催日】8月13日(水) 【開催場所】東野地区、白水港周辺
【問合せ先】大崎上島町観光協会(大崎上島町産業観光課内) ☎0846-65-3123
【URL】<http://www.osakikamijima-kanko.jp>



豪快な権伝馬競漕

特産品 みさとちよう 美郷町 (島根県)

地図 O

高級食材として特産化した「おおち山くじら」

「獣害」は、中山間地域にとって大きな問題となっています。美郷町でも数多くのイノシシが生息しており、駆除されていますが、天然の自然薯や樫の実などを食べて育ったイノシシの肉質は歯ごたえが良く、めったに味わえない名物として地元の人に愛されています。その一方、イノシシの肉は処理が難しく、市場に出すことが困難とされていました。しかし、平成11年に、独自の処理方法で臭みを排除し、脂がのっている冬場はもちろん、夏場でもヘルシーにおいしく食べることができるようになりました。今では「おおち山くじら」のブランド名のもと、高級食材として人気の特産品となっています。「駆除イノシシの特産化」にとどまらず、地域住民が資源化を通じて過疎と少子高齢化の問題を考え、中山間地域ならではの、まちづくりをしていくための「地域ブランド・おおち山くじら」を目指しています。

【問合せ先】美郷町産業振興課 ☎0855-75-1214



特産品 おおす 大洲市 (愛媛県)

地図 R

伊予の小京都大洲の伝統名菓「志ぐれ」

「志ぐれ」は愛媛県大洲市の郷土菓子で、古くは江戸時代中期、大洲藩江戸屋敷内の秘法菓子と伝えられています。北海道産の小豆と米粉、餅粉を原材料に使用し、セイロで蒸し揚げた芋物菓子で、独特のもちもちした食感と香り豊かな小豆の風味が特徴です。



市を代表する特産品「大洲ええモンセレクション」の認定を受けた(有)富永松栄堂、山栄堂、菓子処氣晴をはじめ、市内十数店舗の和菓子店で製造販売されており、比較的味が濃く風味豊かなものや、あっさり目で後味のよいものなど、お店によって風味や食感は様々。食べ比べればそれぞれの違いを楽しむことができます。

お買い求めは各和菓子店をはじめ、大洲まちの駅あさもや、松山空港売店、四国キヨスク (JR予讃線の松山～卯之町間の各駅)、いよてつ高島屋、松山三越など。ネット販売「大洲特産品広場」でも。

【問合せ先】大洲市産業振興課 ☎0893-24-2111 まちの駅あさもや ☎0893-24-7011

イベント あなん 阿南市 (徳島県)

地図 Q

光と踊りの競演
～阿南の夏まつり2014

阿南の夏の風物詩ともなっている夏の大イベントです。

メイン会場の特設ステージは数多くのLEDが点灯し、まち全体も光に包まれ、幻想的な雰囲気が演出されます。



LEDで創られた「ギャラクシードーム」

メイン会場では、さまざまなステージイベントや市内外の有名連や企業連による阿波踊り競演も行われ、一層、阿南の夏を熱くします。

そして、最後日には花火大会が行われ、色とりどりの花火が打ち上げられ、踊り手・観光客が一体となって、さらなる盛り上がりを見せ、お祭りムードも最高潮に達します。

【開催日】7月25日(金)～27日(日) 【開催場所】阿南市役所周辺

【問合せ先】阿南市商工観光労政課 ☎0884-22-3290

【URL】<http://www.anan-kankou.jp>

イベント げんかいちょう 玄海町 (佐賀県)

地図 T

観光と物産も楽しめる
～玄海町花火大会

物産まつりも同時開催される玄海町の夏最大のイベントです。

イベントはまず、お昼、物産まつりからスタートします。鯛の浜焼き、佐賀牛バーベキューが楽しめ、大ソーメン流しも行われる「玄海うまかもん市」、特産品大抽選会、アジのつかみ取り大会など、催しが続きます。

夕方からはサンセットライブが開催され、イベントの最後は観客の頭上に光り轟く花火。仮屋湾をバックに打ち上げられる尺玉や特殊効果花火が観客を楽しませます。

【開催日】7月27日(日)

【開催場所】いこいの広場(玄海町大字新田)

【問合せ先】玄海町地域振興会 ☎0955-51-3007

【URL】<http://town.genkai.saga.jp>



怒涛の花火

イベント いかたちょう 伊方町 (愛媛県)

地図 S

夏の1日を楽しむ
～第29回瀬戸の花嫁まつり

瀬戸の花嫁まつりは毎年8月に開催される伊方町の夏の一大イベントです。

イベントは午前から夜にかけて行われ、和牛のバーベキュー、小学生による相撲大会、魚のつかみ取りや一般公募等で集まった方によるブライダルショーなど、数多くの催しが行われます。

そして、祭りの最後を飾る花火大会では花火が海を美しく照らし、多くの観光客がその光景に見入ります。

【開催日】8月3日(日) 【開催場所】須賀公園(伊方町三机地区)他

【問合せ先】伊方町瀬戸総合支所 ☎0894-52-0111

【URL】<http://town.ikata.ehime.jp>



華やかなブライダルショーの様子

イベント うるま市 (沖縄県)

地図 V

伝統芸能を楽しむ
～第9回うるま市エイサーまつり

エイサーは沖縄でお盆の時期に踊られる伝統芸能です。祖先の霊を供養するとともに、無病息災・家内安全を願ってエイサーを踊ります。

うるま市は平成17(2005)年に2市2町が合併して発足しましたが、旧市町それぞれがエイサーが盛んなため、「うるま市エイサーまつり」としてスタートしました。

豊かな音色の三線や美しい舞い、勇ましい太鼓が、うるまの空を響かせ、多くの観覧者の心を打ちます。

【開催日】8月22日(金)～24日(日) ※8月22日は前夜祭

【開催場所】(前夜祭)うるま市役所本庁舎横道路、(本祭)調整中

【問合せ先】うるま市商工観光課 ☎098-965-5634

【URL】<http://www.city.uruma.lg.jp>



迫力あるエイサーの舞い

特産品 さつませんだい 薩摩川内市 (鹿児島県)

地図 U

夏用の冷やし麺も登場した「キビナゴラーメン」

代表的な特産品であるキビナゴを使い、薩摩川内市と市観光物産協会、地元飲食店が開発して人気となっている「キビナゴラーメン」ですが、今年から夏用の冷やし麺も味わえることになりました。キビナゴペースト入りのソースを麺に絡め、黒ごま入りのつけだれで食べます。このキビナゴペーストは、塩漬けにして蒸したキビナゴを、オリーブ油に漬け込んで作るものです。アンチョビに似たペーストの風味をマヨネーズでまろやかにしています。つけだれは、黒ごまと豆乳ですっきりとなっており、その配合は各店共通。隠し味と具材で、それぞれのお店の個性を競っています。暑い夏にぴったりの、この冷やし麺は、5月1日～9月30日、市内6店舗で味わうことができ、期間中、1万食の販売を目指しています。

【問合せ先】市観光物産協会 ☎0996-25-4700



電源地域 振興トピックス

町の活性化と“再生”に向けた各地の取り組み

このコーナーでは電源地域各地の地域振興に向けた話題を取り上げています。今回は福島県川内村の「植物工場」、同県楳葉町のギャラリー開設、福井県若狭町や群馬県みなかみ町の町の活性化に向けた取り組みに関する話題をお届けします。



若 女将インターンで 民宿を活性化

福井県若狭町

福井県若狭町には約100軒の民宿があり、新鮮な旬の魚、宿の主人と女将の家族的なおもてなしが、最大の魅力となっている。これを目当てに京阪神、中京方面から多くのリピーターが訪れているが、年々宿泊客が減少しているとともに、後継者

不足から民宿の数自体も減少している現実もある。

町はこの状態を少しでも改善するきっかけづくりのため、平成23年度から「若女将イン

ターン事業」に取り組み始めている。主に都市部在住の女子大学生が若狭町の漁師民宿にインターンシップに入り、仕事の体験やSNSによる魅力発信を行うもの。3年間で29名の女子大学生が参加した。それぞれが1人ずつ1軒の宿に入り、接客・掃除・配膳などの民宿の仕事のインターンを行うとともに、SNSで若狭町の魅力を発信し、最終日には今後の集客案などの観光PRの提案を行



不足から民宿の数自体も減少している現実もある。町はこの状態を少しでも改善するきっかけづくりのため、平成23年度から「若女将インターン事業」に取り組み始めている。主に都市部在住の女子大学生が若狭町の漁師民宿にインターンシップに入り、仕事の体験やSNSによる魅力発信を行うもの。3年間で29名の女子大学生が参加した。それぞれが1人ずつ1軒の宿に入り、接客・掃除・配膳などの民宿の仕事のインターンを行うとともに、SNSで若狭町の魅力を発信し、最終日には今後の集客案などの観光PRの提案を行

っている。インターン終了後も、町が認定する「若狭町観光サポーター」として、首都圏や大阪でイベントなどのPR活動を行う。手当の支給はないが、宿泊・食事の提供がある。それまで、あまり接点のなかった首都圏の学生と若狭町だが、若女将インターン事業がきっかけで、新たな交流が生まれた。町は、女子学生の視点で若狭町の情報を発信してもらい、同世代の集客を期待している。

村の再生と復興に向けて展開する「植物工場」

福島県川内村

福島県川内村では、平成25年4月より、完全密閉型の専用工場野菜を育てる事業を展開している。栽培方法は水耕栽培の進化形で、人工の光と炭酸ガスにより光合成を促し、培養液から栄養を与える、いわゆる「植物工場」。この工場の特徴は、熱放射が少ないLED照明を使用していることや、完全密閉型のクリーンルームであること、インターネット型遠隔監視制御システムの採用などだ。

鮮野菜卸会社の共同事業として開始された。当初は試験的に約50種類の野菜を栽培していたが、現在はレタス類とハーブ類を中心

完全密閉型の工場内部



インターンの女子大学生たち



川内村が「川内高原農産物栽培工場」を建設し、「株式会社KiMiDori」が経営を行うという形態で、村と東京の生



「若狭町観光サポーター」としてのPR活動



アウトドアスポーツタウンを 目指す取組み

みなかみ町は2,000m級の山々の谷川連峰に囲まれ、町の中央を日本有数の大河川である利根川の清流が流れる自然豊かな町である。そのみなかみ町でアウトドアスポ

に、約30種類を栽培している。収穫した野菜は手作業で包装、工場内にある放射線量測定装置で全量検査をして出荷される。原発事故による風評被害は、川内村の地場野菜に大きな打撃をもたらしたが、川内村の再生と震災からの

復興が、この植物工場の立地に至った最も大きな要因。県内の大手スーパーに出荷しているが、今後は生産量と販路のさらなる拡大を目指し、「6次産業化」を視野に入れた新商品の開発などにも取り組むという。

群馬県みなかみ町



ーツの先駆けとなったのは約20年前に利根川をゴムボートで下るラフティングだった。

その後、カヌーやゴムボートの全日本クラスの大会が数多く開催されたこともあり、アウトドアスポーツが急速に普及した。

現在では一年を通じて、様々なアウトドアスポーツが町内の山・川・湖を舞台として数多くの方々を楽しませている。

そんな中、来町者に安心してアウトドアスポーツを楽しんでもらえるよう、安全確保のためのルール作りを行い、安全レベルの向上を目指す

うという機運が町内で盛り上がり、まず、事業者により「一般社団法人アウトドア連合会」が組織され、その後、「みなかみ町アウトドアスポーツ振興条例」が平成25(2013)

文化の発信を今、榊葉から GALLERY G.TOO開設

福島県榊葉町

東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の影響により、現在、町の大半が避難指示解除準備区域に指定されている福島県榊葉町。その榊葉町に昨年11月に開設されたのが「GALLERY G.TOO」である。

年4月に施行された。今後、同町ではこの条例の活用により、さらに質の高いアウトドアスポーツを提供できる「アウトドアスポーツタウン」を目指している。

した」と話す。

ギャラリー開設後は定期的に個展が開催されている他、お茶など飲みながら語らうスペースも設けられ、榊葉町民の方々の交流スペースとしても活用されている。

このギャラリーを開設したデザインスタジオ オガリ代表の猪狩泰人さんは、「今後、榊葉町民の皆さんの帰町が本格化していくのが予想されるが、建設やライフラインなどハード面だけでなく、絵画をはじめとした文化面で交流の場を提供することにより、『心の復興』に役立ちたいという思いで開設しま



楽しく交流する榊葉町民の皆さん



評議員会理事会にて当財団の平成25年度決算を確定、専務理事を選出しました

当財団の平成25年度決算については、5月に開催の第10回理事会でご承認をいただいた後、平成26年6月11日(水)に開催した第6回評議員会にてご承認をいただき確定しました。

この評議員会では、すでに第10回理事会でご承認をいただいた平成25年度事業報告書についても、その概要をご報告しました。

また、当財団では本年4月に当財団

のホームページで専務理事候補者を公募し、

これまで外部有識者から構成される選考委員会により、

第一次・第

二次と審査を重ねてきましたが、第二次選考合格者の杉原誠が第6回評議員会で審議の結果、理事に選任された



当日の様子

就任ご挨拶

専務理事 杉原 誠



わが国における電力エネルギーの重要性は、論を俟たないものですが、電力を生み出す電源市町村の重要性についても、これは同様であり、重要なエネルギー供給地として、将来にわたり、継続的に

地域の振興を図ることが欠かせないものと認識しております。

東日本大震災により甚大な被害を受けた福島第一原子力発電所の事故を契機として、わが国の電力を取り巻く環境は大きく変化したところですが、これまでのご関係の皆様のご尽力により、原子力発電所の再稼働も大詰めを迎える中、早期の再稼働の実現には、電源市町村との信頼関係が極めて重要であると考えております。引き続き、様々な事業の実施を通じて、ご関係の皆様のご期待に応えるべく、努力してまいりますので、よろしくお願いいたします。どうぞご支援いただきますようお願い申し上げます。

後、引き続き開催された第11回理事会で出席理事の互選により専務理事として選任されました。任期は平成28年6月に開催予定の評議員会の終結の時までです。



「電気のふるさと」Webマガジン化 延期のお知らせ

前号で、今号より当センター広報誌「電気のふるさと」を「Webマガジン」としてお届けする予定とお知らせしましたが、諸般の事情により延期することとなりました。



今号のWebアンケートプレゼント

「電気のふるさと」編集室では、今後のより良い誌面作りのため、Webアンケートを実施させて頂いており、多くの皆様のご意見をお聞かせいただければ幸いです。

なお、アンケートにお答えいただいた方の中から抽選で2名の方に今号の「わがまち自慢」に登場した福井県敦賀市の昆布加工品「越前和紙箱詰合せ」(蔵囲利尻昆布、おぼろ昆布他)をプレゼントいたします。

■アンケート回答方法

当センターのホームページ(文末参照)の入力フォーム内のアンケートに

Webマガジンへ移行するまでの間は、これまでどおり、冊子「電気のふるさと」として発行いたします。

なお、「Webマガジン」発行開始時期につきましては後日、改めて本誌および当財団ホームページにてお知らせいたします。

皆様にはご迷惑をおかけしたことをお詫びいたしますと同時に、今後ともご愛読のほどよろしくお願いいたします。

【お問合せ】

(一財)電源地域振興センター
電気のふるさと編集室
☎03-6372-7305
eメール: furusato@dengen.or.jp

ご記入のうえ、「送信」ボタンを押して送信してください。

×切は平成26年8月31日(日)。当選の発表は発送(平成26年9月下旬予定)をもって代えさせていただきます。

【お問合せ】

(一財)電源地域振興センター
電気のふるさと編集室
☎03-6372-7305
ホームページ: www.dengen.or.jp/html/leaf/furusato/enquete.html



昆布加工品の越前和紙箱詰合せ



第4回 電気のふるさと フォトコンテスト

審査 結果

総評

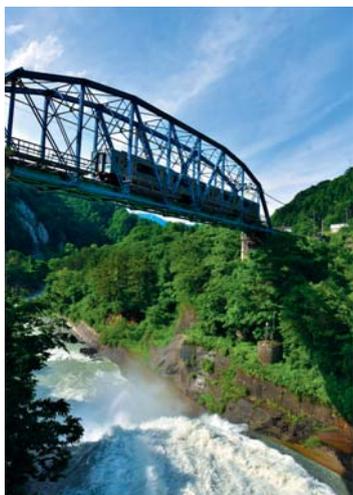
「電源地域」という限られたエリアの中でこれほど美しい風景が撮影できるということは、日本の自然環境がいかに恵まれているかの証左でもあるだろう。

このコンテストの意義をよく理解して応募された方々の努力も感じられた。

質の高い写真作品が数多く最終審査まで残ったことも、4回目を迎えて応募の裾野が広がってきたことを裏付けていると思う。

人を含む生き物や自然環境が共に健やかに在るという有難さを感じつつ、豊かな自然と文化にあふれたこの国に住むことの幸せを、写真でもう一度見つめなおしてみよう。

そこに「電気のふるさと」という、いままで気付かなかった大切なものが、自然や風景や暮らしなどを通して見えてくるに違いないから。



最優秀賞 「急流を渡る」 水島 脩行さん

撮影地：長野県小谷村

急流の鉄橋を渡る電車の音が聞こえてきそう。新緑の山、青空と雲、水流それぞれの色彩コントラストも素晴らしい。スケール感にも動感にもあふれた、稀に見る風景写真だ。

自然と人間のエネルギーの交差を捉えた写真と言ってもいい。縦位置で余分な要素を省き、的確に狙いを描出した画面構成が際立っている。



優秀賞 「晩秋の観音沼」 住 由子さん

撮影地域：福島県下郷町

実に見事な風景写真。地上の実景と水面への映り込みの両方で、秋の雑木林の美しさを表現し、深いピントで描写された木立の繊細さにも飽きさせない魅力がある。

ただ惜しむらくは画面上下のバランスが拮抗して、やや単調に感じられること。幻想的な水面部分をもう少し多くとり入れたらさらに良くなった。



優秀賞 「悠久の大地」 中村 昭夫さん

撮影地域：三重県熊野市

穏やかに暮れなずむ棚田の景色に、日本の原風景を見る思い。

太陽が山の端に隠れたところを狙ったのと薄曇りの気象が幸いして、コントラストが高くなりすぎずにしっとりとした山里の空気感が再現できた。

安定した構図のうまさ、暗部がつぶれない露出設定など、作者の撮影技術も成功を支えたといえる。

選評

審査委員長
板見 浩史さん

1952年、福岡県生まれ。法政大学卒。写真専門誌『フォトコンテスト(現フォトコン)』誌の編集長を約20年務めた後、2004年独立。写真関連の企画・制作会社Jophy Communications代表。フォトエディターとして多くの写真賞やコンテストの審査を担当。写真関係者でつくる俳句会「一滴会」同人。2007年11～12月、NHK教育TV「趣味悠々」で『カシャッと一瞬! フォト五七五』の講師を担当、2009～2012年NHK衛星第2の同名番組で審査員を務める。日本写真協会会員。NPOフォトカルチャー倶楽部専務。



電源地域 振興センター事業

通 用 例 紹 介

「佐賀県玄海町におけるミシマサイコ茶の商品化」

玄海町には九州大学薬学院・工学院等と共同の重要生薬(薬草)の生産開発研究施設「玄海町薬用植物栽培研究所」が設置されています。そこで栽培された薬草「ミシマサイコ」を原料としたお茶の商品化と販売を目的に資する専門家の派遣を行いました。

商品化にあたり、まずは町としての将来の薬用植物に対するビジョン、販路、販売方法などマーケティングの基本要素を考えていきました。続いて、ミシマサイコに合う14種類のサンプルを専門家が用意し、町役場職員や一般参加者の方々に試飲して頂き、香り、口に入れた時の香味・食感、食べ物との相性などの評価を行いました。これらの助言が実を結び、「みしまさいこさんの愛情茶」として商品化されました。ミシマサイコの葉や茎をベースに柿や桑の葉も加え、薬草独特の渋みを抑え、あっさりした風味で緑茶に似た味わいに仕上がりました。町民の皆様からも好評を得ています。平成26年4月からは町役場などで



みしまさいこさんの愛情茶



試飲の様子

「専門家派遣事業」のご活用事例を紹介いたします

当センターでは、電源地域が抱えている課題の克服や問題の解決に向けて、各分野の専門家が現地指導を行う「専門家派遣事業」を行っております。本事業は対象とする事業分野を問わず事業形態も自由なため、様々な課題を解決する「契機」としてご活用頂いております。

今回は、平成25年度に当事業をご活用頂いた事例の中から「佐賀県玄海町におけるミシマサイコ茶の商品化」と「福島県只見町における元気な集落再生ワークショップ」を紹介いたします。

ワークショップの様子



フィールドワークの様子

販売しているほか、今後「ふるさと納税」のお返し品として送り、町の新名物として全国にアピールする予定で、地域を元気づける新産業に育つことが期待されています。

「福島県只見町における元気な集落再生ワークショップ」

只見町は、若者の都市部への流出やそれに伴う後継者不足などから、次第に過疎化が進んでおります。そのような状況を打開するため、地域の方々が自治振興会を立ち上げ、地域活性化に取り組もうと活動されておりました。今回は、地域活性化を進めるにあたり、地域の方々自身が自分たちの集落の良い点を新認識・再認識し、地域資源の掘り出し手法を学んで頂くことを目的に、①ワークショップ形式の会議、②カードを使ったKJ法による意見の整理、③フィールドワークと絵地図づくり、の3つの手法について専門家の助言を行いました。

フィールドワークでは、ワークショップで挙げた地域資源を分野別に分け、①まちなか・くらしコース、②農業・産業コース、③都市・農村交流コースに分けて実際にまち歩きしたところ、地域

の方々もこれまで見落としていた特色ある地域資源に気付くことができました。また、今後の活用方法を議論したところ、新たな特産品開発やターゲティング向け古民家に活用できるのではないかなど、地域の方々から活発な意見が飛び交い、只見町の地域活性化のきっかけ作りに貢献できたものと考えております。

終わりに

このように「専門家派遣事業」は、対象とする事業分野や形態を問わず「使い勝手のよい支援事業」として評価していただいております。今回ご紹介した商品開発や地域おこし以外にも、観光開発、エネルギー勉強会、企業誘致や農業振興など、様々な課題を解決する「契機」としてご活用頂けます。

平成26年度も「専門家派遣事業」のご要望を随時受け付けております。詳しくは当センターのホームページをご覧ください。お気軽にお問合わせください。

■地域振興部 振興調査課

☎03-6372-7306

eメール: senmon@den-gen.or.jp